

地域再生計画

1 地域再生計画の名称

森林文化都市はんのう 賑わい活力創造プロジェクト

2 地域再生計画の作成主体の名称

埼玉県飯能市

3 地域再生計画の区域

埼玉県飯能市の全域

4 地域再生計画の目標

飯能市は都心から 50 km圏内に位置し、アクセスしやすい地域でありながら、里地・里山、豊かな自然を身近に体験できる地域であることが特長である。この特長を生かし、都心からの玄関口となる飯能駅（西武池袋線）、東飯能駅（西武池袋線、JR八高線）を中心とした市街地を取り囲むように、市民の憩いの場であり、本市を代表する観光スポット（駅から 3 km圏内）でもある「宮沢湖」「トーベ・ヤンソンあけぼの子ども森公園」「飯能河原・天覧山」が点在している。これらの観光拠点には、市民のみならず、身近な自然の中での楽しみを求めて、都心からの観光客も年間を通じて訪れている。

これらの観光スポットを本市は都市回廊空間として位置づけ、それぞれの魅力と集客力を面的に連携させ、エリアとしての魅力の向上を図ってきた。

宮沢湖畔には、北欧の雰囲気とムーミンの世界観が体験できる施設メッツァが整備され、平成 30 年 11 月には湖畔の森で体験する北欧のライフスタイルを提唱するメッツァビレッジ、平成 31 年 3 月にはムーミン一家とその仲間たち、そして新しい発見との出会いがあるムーミンバレーパークがグランドオープンしたことで、新たな人の流れが創出されている。

トーベ・ヤンソンあけぼの子ども森公園では、公園内での「カフェ プイスト」のオープンや、園内のライトアップが開始されたほか、毎年度、民間事業者（ソニー・ミュージックエンタテインメント）と連携したイベントを開催している。

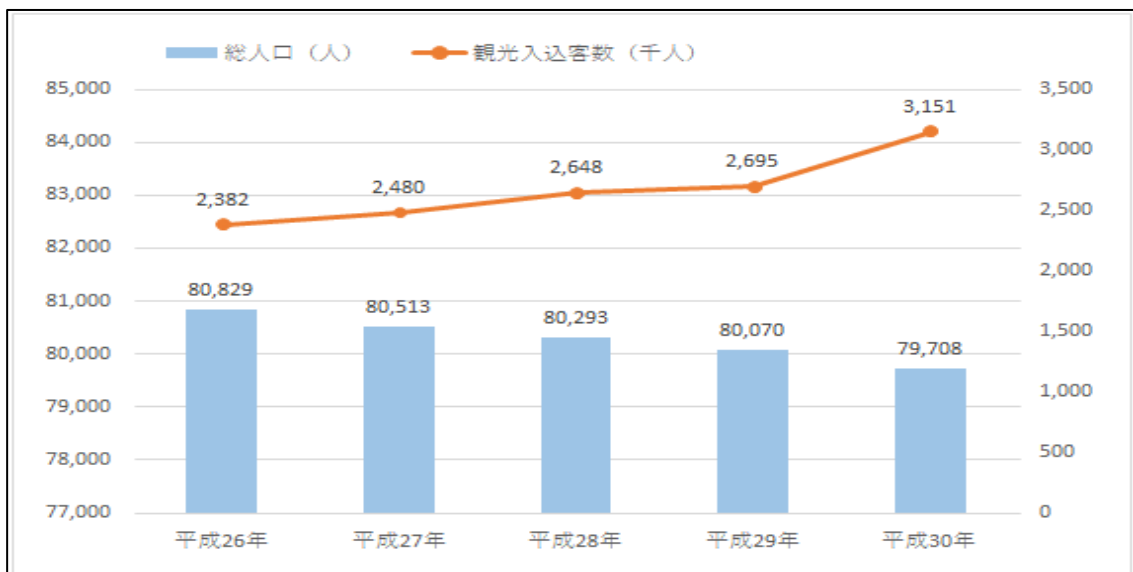
飯能河原・天覧山周辺では、飯能河原の商業利用が開始され、民間事業者が進出したほか、割岩橋周辺のライトアップの開始、飯能河原のウッドデッキの設備充実、観光公衆トイレの整備、飯能市博物館のリニューアル・ビジターセンター化などが行われ、都市回廊空間のブラッシュアップが進んでいる。

さらには、令和2年初夏には、天覧山下に食（発酵食品）のテーマパーク「OH!!!」が開業予定であり、新たな飯能市の観光拠点として更なる賑わいの創出が期待される。

このようなことにより、本市の交流人口（観光入込客数）は、年々増加しており、平成27年の約248万人から平成30年には300万人を突破し、令和元年は400万人を超える見込みとなっている。

	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年
総人口（人）	80,829	80,513	80,293	80,070	79,708
観光入込客数（千人）	2,382	2,480	2,648	2,695	3,151

※総人口：各年12月31日現在、観光入込客数：暦年カウント年間数



一方、定住人口は、平成17年の84,982人をピークに人口の減少傾向に歯止めがかかっていない。特に若者世代の転出超過、合計特殊出生率の低さは、少子化、人口減少傾向に拍車をかけている。しかし、平成27年以降、社会動態においては転入超過が続いているという明るい兆しが見えてきている。

今後は、都市回廊空間の更なる魅力の向上に加え、交流人口の増加に伴う駅周

辺（中心市街地）の商業エリアに経済効果を創出すること、都市回廊空間から山間地域へ人の流れと経済効果を波及していくこと、交流人口の増から定住人口の増に変化させ人口減少に歯止めをかけることが課題である。

都市回廊空間の更なる魅力向上に向けては、更なるブラッシュアップを図り、エリアとしての集客力を高め、経済活動（消費、仕事、雇用）を安定的なものとすることを目指す。

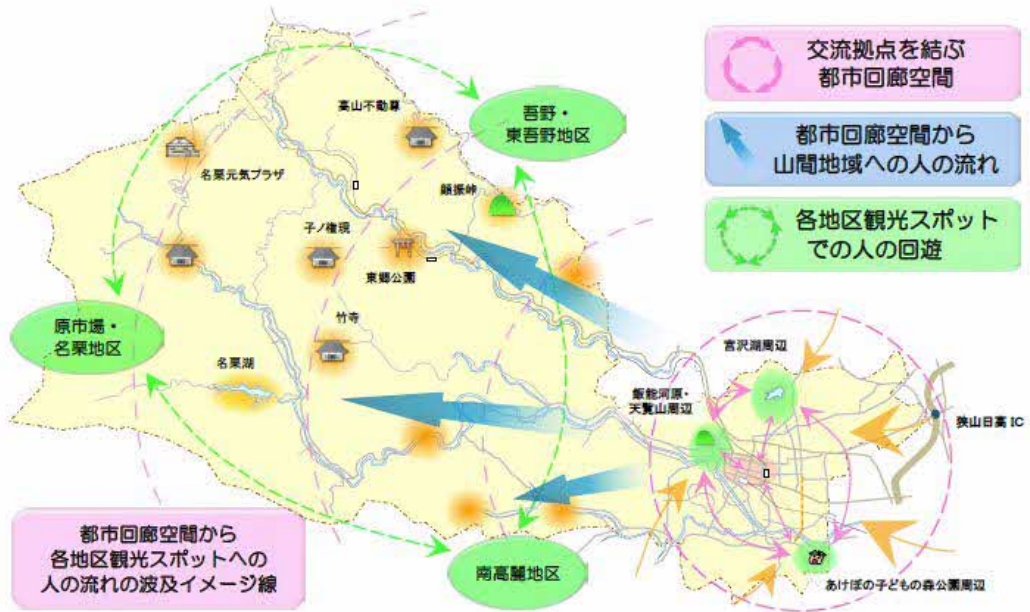
交流人口の増加に伴う駅周辺（中心市街地）商業エリアへの経済効果の創出に向けて、シティプロモーションの展開のほか、新規出店、新規創業の促進、商店街等でのイベント支援、インバウンド対策、メツァとの連携などを図り、増加している交流人口（観光客）を中心市街地の商業エリアへ誘導し、中心市街地への経済効果を高めていくことを目指すものとする。

都市回廊空間から山間地域への人の流れと経済効果の創出に向けては、吾野・東吾野地区等での「既存公共施設の利活用」、名栗地区の「飯能市農林産物加工直売所」をリニューアルし、民間事業者のノウハウを生かした新規事業展開による魅力の創造を図り、観光振興、農林業振興、賑わいの創出など政策間連携により地域活性化に取り組むものとする。また、間伐体験や自然に親しむ体験の提供や、環境教育及び情操教育の場など、地域の資源である森林の新たな利活用を図るものとする。

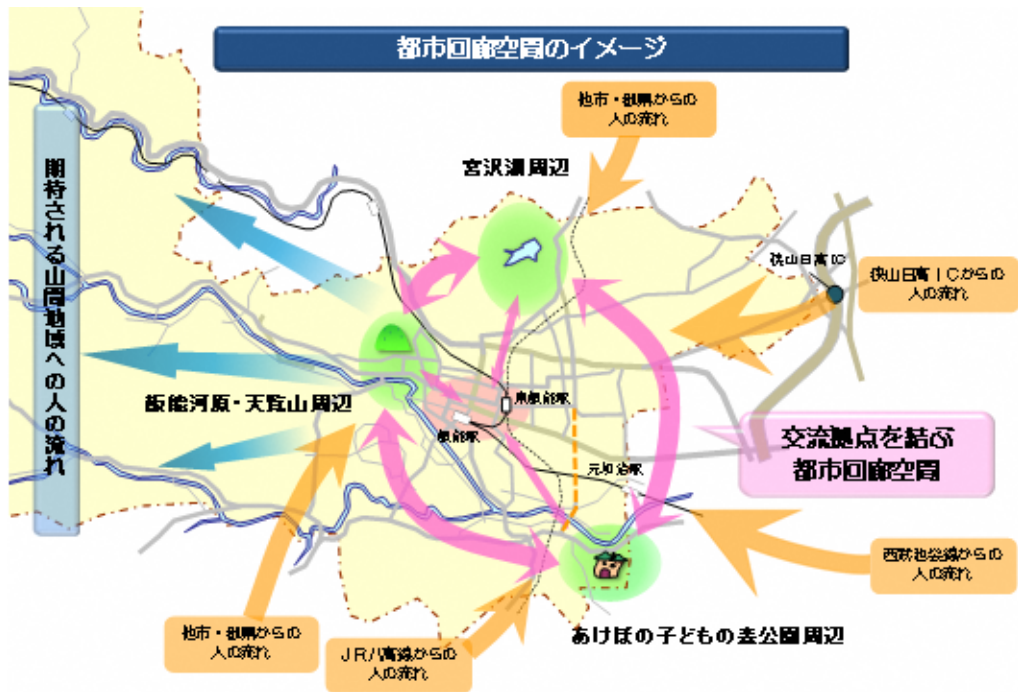
定住人口の増に向けては、定住人口が中心市街地では増加し、山間地域では減少している状況を踏まえ、“農のある暮らし”「飯能住まい」制度（南高麗地区）や空き家バンク制度の更なる推進、山間地域での小中一貫校の創設によりフィンランド教育に学ぶ21世紀型教育の実践（吾野・東吾野地区）など、特長を広くアピールし、山間地域への移住促進を図るものとする。

このような取組を総合的、戦略的に行うことで、飯能市全体の交流人口の増、賑わいの創出、定住人口の増を図ることが大きな目標である。

「水と緑の交流による新機軸」のイメージ



都市回廊空間のイメージ



【数値目標】

5-2の ①に掲げ る事業	K P I	現状値 (計画開始時点)	目標値 (令和6年度)	達成に寄与する 地方版総合戦略 の基本目標
ア	市内観光入込客数 (千人/年)	3,151	4,800	基本目標 (2)
	トーベ・ヤンソンあけぼの子ども森公園来園者数 (人/年)	250,000	310,000	
	飯能河原河川敷地利用団体売上額 (千円/年)	5,000	7,000	
	名栗地区観光交流拠点入込客数 (人/総)	55,000	75,000	
	新規出店促進事業による新規出店件数 (件/年)	40	65	
	ご当地アプリダウンロード数 (件/総)	8,088	20,000	
	他自治体等での観光・物産プロモーション回数 (件/年)	24	30	
イ	人口社会増減数 (人/年)	△25	±0	

5 地域再生を図るために行う事業

5-1 全体の概要

本市には、自然や歴史などの観光資源は多く存在しているが、「核」となる観光資源が存在してこなかった。しかし、宮沢湖畔に平成30年11月にはメッツァビレッジ、平成31年3月にはムーミンバレーパークが開業し、本市の観光に大きなインパクトを与えている。

今後は、メッツァ開業等の効果による交流人口の増加に伴う駅周辺（中心市街地）の商業エリアに経済効果を創出すること、都市回廊空間から山間地域へ人の流れと経済効果を波及していくこと、交流人口の増から定住人口の増に変化させ人口減少に歯止めをかけることが課題である。

そのため、市内に点在する主要な資源と連結した魅力的な「都市回廊空間」を構築し、回遊性をさらに向上させることで、交流人口の拡大を図り、観光スポット、中心市街地の双方に賑わいを創出し、その波及効果を魅力を高めた山間地域を含む全市的な広がりへとつなげる取組とともに、本市の移住、定住人口を増やす住みやすいまちづくりに向けた取組を総合的に実施していく。

5-2 第5章の特別の措置を適用して行う事業

○ まち・ひと・しごと創生寄附活用事業に関連する寄附を行った法人に対する
特例（内閣府）：【A2007】

① 事業の名称

森林文化都市はんのう 賑わい活力創造事業

ア 北欧に学ぶまちづくり

- (1) 宮沢湖周辺の魅力アップ
- (2) トーベ・ヤンソンあけぼの子ども森公園の魅力アップ
- (3) 飯能河原・天覧山周辺の魅力アップ
- (4) 山間地域における観光・交流拠点等の整備、魅力アップ
- (5) 都市回廊空間を中心とした(1)から(4)を結びつける観光拠点の整備
- (6) シティプロモーション

イ 「幸福度の高い生活の実現」

- (1) 移住、定住を促す選ばれるまちづくり
- (2) フィンランドとの交流

② 事業の内容

ア 「北欧に学ぶまちづくり」

(1) 宮沢湖周辺の魅力アップ

(行政と民間事業者が連携してインパクトのある観光スポットを創出)

- ・ 北欧の雰囲気とムーミンの世界を体験できる施設メッツァと連携したイベントを開催し、「ムーミンバレーパークのあるまち飯能」として市の認知度を向上

- ・ 憩いの場、観光スポットとして宮沢湖外周道路の魅力向上

(2) トーベ・ヤンソンあけぼの子ども森公園の魅力アップ

(行政と民間事業者が連携して観光スポットをブラッシュアップ)

- ・ 北欧の雰囲気とムーミンの世界を体感できる施設メッツァと連携した空間の演出

- ・ 駐車場等の周辺整備による来園者の利便性向上

(3) 飯能河原・天覧山周辺の魅力アップ

(行政、民間事業者、地域住民等が連携し観光スポットをブラッシュアップ)

- ・行政（埼玉県、飯能市）、民間事業者（観光協会、商工会議所、企業等）、地域住民と連携して設立した飯能河原利用調整協議会での河川敷地の有効活用による新たな経済効果を創出
- ・飯能河原の河川占有者は、河川敷地の有効利用をサポートするため、河川周辺の環境整備や利用マナー啓発等を行い、環境保全を実施
- ・河川敷地内の利用者増加に対応するため、景観保全や安全性に配慮した施設、駐車場等を整備
- ・河川敷内に遊歩道を整備し、親水空間としての魅力を向上
- ・天覧山の麓に令和2年初夏開業する食（発酵食品）のテーマパーク「OH!!!」との連携

(4) 山間地域における観光・交流拠点等の整備、魅力アップ

(行政、民間事業者、地域住民等が連携し観光スポットをブラッシュアップ)

- ・山間地域の既存公共施設を地域の新たな交流拠点、仕事の創出の場などとしての利活用
- ・山間地域の名栗地区で飯能市農林産物加工直売所の観光交流拠点としての機能の強化、拡充
- ・地域の資源である森林の整備と、観光や学びの場など森林の新たな利活用の推進
- ・メツァを訪れる来場者を山間地域へとつなげるための魅力向上と雇用の場の創出

(5) 都市回廊空間を中心とした(1)から(4)を結びつける観光拠点の整備

- ・都市回廊空間のブラッシュアップによる交通渋滞が懸念されることから周辺道路の交通量調査、道路改良工事等の実施
- ・国内外の観光客を意識したW i - F i 環境の整備、多言語表示の案内標識の整備

- ・ご当地アプリ等と連携した都市回廊空間の回遊性向上イベントの実施
- ・飯能駅、東飯能駅を中心とした商店街での賑わいの創出、インバウンド対策
- ・新規出店、新規創業者への積極的な支援

(6) シティプロモーション

- ・シティプロモーション動画の開発
- ・「ムーミン」ライセンスを活用し、フラッグ、横断幕、のぼり旗などの作成・掲出による誘客と賑わいの創出
- ・交流都市（神奈川県横浜市中区、東京都豊島区、埼玉県西部地域まちづくり協議会（所沢市・狭山市・入間市・日高市）、茨城県高萩市等）と連携したシティプロモーション
- ・民間事業者（西武鉄道株式会社、株式会社ムーミン物語、株式会社よしもとクリエイティブエージェンシー、ソニー・ミュージックエンタテインメント等）と連携したシティプロモーション
- ・デジタルコンテンツを使用した情報発信
- ・観光コンシェルジュによる魅力あるプログラムの提供

本事業は、飯能市地域創生プログラム（まち・ひと・しごと創生総合戦略）の基本目標（2）「交流人口、定住人口の新しい人の流れをつくる」に位置付けられる事業であり、当該基本目標（2）のKPIである「市内観光入込客数 480 万人（令和 6 年度）」の達成にまさに寄与するものである。

イ 「幸福度の高い生活の実現」

(1) 移住、定住を促す選ばれるまちづくり

- ・空き家バンク、優良田園住宅制度“農のある暮らし”「飯能住まい」を推進
- ・住宅リフォーム、西川材優良住宅、住宅耐震化などへの助成
- ・不妊治療助成、子育ての経済的負担の軽減など女性や子どもにやさしいまちづくり施策を実施
- ・妊娠、出産、子育てを通じ、誰もが安心して気軽に相談でき、必要

な支援につながる仕組みとして、保健、福祉、医療等関係機関の密接な連携による包括的な支援システム「飯能版ネウボラ」を構築

- ・健康づくり、高齢者や障害者の生きがいくくりなどを通じ、誰もが元気なまちづくりを推進
- ・小中一貫教育の奥武蔵創造学園の創設による、フィンランド教育に学ぶ21世紀型教育（ミュージカル教育、ICT教育等）の実践や森林など豊かな自然環境・地域の特色を生かした教育など、多様で豊かな教育の推進

（２）フィンランドとの交流

- ・大学、飯能市フィンランド協会等との連携による北欧文化交流の推進

本事業は、飯能市地域創生プログラム（まち・ひと・しごと創生総合戦略）の基本目標（２）「交流人口、定住人口の新しい人の流れをつくる」に位置付けられる事業であり、当該基本目標（２）のKPIである「人口社会増減数±0人（令和6年度）」の達成にまさに寄与するものである。

③ 事業の実施状況に関する客観的な指標（重要業績評価指標（KPI））

4の【数値目標】に同じ。

④ 寄附の金額の目安

250,000千円（2020年度～2024年度累計）

⑤ 事業の評価の方法（PDCAサイクル）

事業のKPIは、実績値を飯能市ホームページで公表する。

また、計画期間中においては、各年度5月までに前年度結果（進捗状況）を取りまとめ、外部有識者（大学、民間事業者、金融機関など）や自治会などの住民からの意見、議会の関与を得ながら各年度9月を目途に検証し、改善点を踏まえて次年度の事業手法を改良することとする。

⑥ 事業実施期間

2020年4月1日から2025年3月31日まで

6 計画期間

2020年4月1日から2025年3月31日まで